資料5

二次救急（小児整形外科患者対応）について

1 現状

・東京ルール案件（14歳以下・平成27年）の約6割が整形外科領域の案件である。
・そのうち骨折が約5割を占め、手術の可能性が高い案件が多い。
・救急搬送案件全体（14歳以下、平成26年度）の平均搬送時間（覚知～病着）は約36分、整形外科案件のみでは約40分と長くなっている。（東京消防庁データより）

2 小児整形外科患者に係る調査結果

○調査時期：平成28年5月～6月　○調査対象：指定二次医療機関（外科系）、（小児科）〔235施設〕　○回答数：160施設（回収率68%）

【受入状況】
・小児の整形患者を概ね受け入れられている医療機関は約2割
・手術が原則可能な医療機関は、約3割
・特に乳幼児が受入困難となっている

【院内体制】
・小児の整形外科患者に対応している医師は整形外科医である医療機関が約7割
・整形外科医の当直を毎日配置している医療機関は2割、整形外科医かつ小児科医の当直を毎日配置している医療機関は約1割

【受入困難となる理由】
①診察する医師が不在
②手術が必要な患者の対応が不可能
③小児科医・麻酔科医等が不在
④医師が小児の診察に慣れていない

【手術対応できない理由】
①整形外科医はいるが小児科医が不在
②小児に慣れた麻酔科医等が不在
③小児用の手術器材がない

【対応困難な外傷】
・開放性骨折、肘周辺の骨折、神経血管損傷の可能性があるもの等
・緊急手術が必要な案件は対応困難な場合が多い

≪小児整形患者の受入状況≫

概ね受入れている（目安：約９割以上）	19%
時々受入困難となる（目安：約６～８割）	31%
受入困難となるときが多い（目安：約３割～５割）	17%
ほとんど受入困難である（目安：約２割以下）	33%

≪手術対応の可否≫

原則可能	32%
困難な時が多い	39%
全く不可	30%

≪受入困難な年齢区分≫

手術が必要な患者

年齢区分	困難と回答した病院数
乳児	131
幼児	102
小学校低学年	73
小学校中学年	62
小学校高学年	52
中学生	43

手術が不要な場合

年齢区分	困難と回答した病院数
乳児	106
幼児	75
小学校低学年	43
小学校中学年	32
小学校高学年	26
中学生	18

3 今後の方向性

搬送先選定困難になっている小児の整形外科案件について、以下の取組を検討

○ 乳幼児患者や緊急手術にも対応できる医療機関の確保
○ 受入れ可能な医療機関の明確化